

座長 武田 博明 先生 (済生会山形済生病院 TQMセンター長)

演題 「抗酸菌前処理は効率的か？」

演者 御手洗 聡 先生 (結核予防会 結核研究所抗酸菌部 部長)

演題 「女子サッカー監督のちょっと裏話」

演者 千葉 泰伸 監督 (株式会社ベガルタ仙台 育成部 レディース監督)

日時 2016年1月30日(土)
12:10~13:10



会場 第8会場

(仙台国際センター・展示棟 1F 会議室3)

本ランチョンセミナーは整理券制です。
配布場所：ランチョンセミナー整理券配布所
(仙台国際センター展示棟)
配布日時：2016年1月30日(土)
8:00 ~ 11:30 (先着順、なくなり次第終了)
【注意事項】整理券はセミナー開始5分後に無効となります。



本学会付設展示会にて弊社製品を展示しております。
是非お立ち寄りください。



共催：第27回 日本臨床微生物学会総会・学術集会 / 東ソー株式会社

座長 武田 博明 先生(済生会山形済生会病院統括診療部長)

演題 「女子サッカー監督のちょっと裏話」

演者 千葉 泰伸 監督(株式会社ベガルタ仙台 育成部 レディース監督)

2011年に起きた東日本大震災。当時、東京電力が母体の女子サッカーチームである東京電力マリーゼが、震災の影響で活動休止となった。それを移管するかたちで翌年の2012年にベガルタ仙台レディースが発足した。その初年度から監督を務めて今年で5年目になる。

女子サッカー選手を指導するにあたり、男子との違いに直面し苦悩の毎日。筋力が男子より少ないためにプレーのスピードは遅く、ボールを蹴る距離も出ない。そして、その筋力が弱いために前十字靭帯を断裂する選手が非常に多い。また、サッカーのプレー、怪我以外にも女子選手を指導する上で大変なことがたくさんある。男子の世界で生きてきた自分にとっては特有なことが多いのだ。

医学の世界とは全く異なるサッカーの現場、それも女子サッカー。監督としての苦悩と裏話をお楽しみに。

演題 「抗酸菌前処理は効率的か？」

演者 御手洗 聡 先生(結核予防会 結核研究所抗酸菌部 部長)

結核あるいは非結核性抗酸菌症の診断時に行う抗酸菌検査は、一般に塗抹、培養及び核酸増幅法検査である。それぞれの検査法はこの20年のうちに自動化等格段の進歩を遂げているが、これらの検査に共通する「前処理過程」はほとんど進歩していない。一般に行われる雑菌処理法はNaOHを使用しているため、標準的な処理でも結核菌の40%を発育不能にしている。遠心集菌法は3,000G程度のパワーしかないため、実際には最大でも50%程度しか集菌していない。これらの非効率的な集菌過程は抗酸菌検査の感度向上を阻んでいる大きな要因である。例えば核酸増幅法検査は1コピーの結核菌を増幅・検出するポテンシャルがあるにもかかわらず、液体培養に感度的に劣っているのは反応チューブ内に効率的に結核菌遺伝子を持ち込めないのが原因である。また、主にバイオハザードの問題があるため、前処理過程のほとんどはいまだにマニュアル操作のままであり、迅速大量処理の足かせとなっている。抗酸菌検査のそれぞれの検査精度をさらに向上させるには、前処理過程を効率化するのが現時点で最も効果的であり、今回のセミナーでは効率的な抗酸菌前処理方法について考察する。

第27回 日本臨床微生物学会総会・学術集会

企業展示会のご案内

会期 2016年 1月 29日(金) 13:00~18:00

1月 30日(土) 10:00~16:00

1月 31日(日) 9:00~12:30

会場 仙台国際センター・展示棟

出展予定品 自動遺伝子検査装置 TRCReady-80